高級アルコール工業

新本社研究所 開所式典を開催

～不退転の姿勢と挑戦を礎に未来を創造～

高級アルコール工業は11月21日、2025年6月に竣工した新本社研究所の開所式典・見学会を開催した。式典には、同社の川合清隆社長をはじめ、商工組合中央銀行の関根正裕社長、千葉興業銀行の梅田仁司取締役頭取・CEOら来賓や関係者が多数駆けつけ、創業75周年を目前に控えた同社の新たな拠点の完成を祝った。

同社は創業以来、優良な化粧品原料の開発・製造販売を通じて社会に貢献するという理念のもと、時代の変化に果敢に対応し続けてきた。その歴史は積極的な投資の軌跡でもあり、1989年には本社工場を江戸川区平井から現在の千葉県成田市・大栄工業団地へと移転させ、2016年には第二工場・研究所を完成させた。売上が約10億円であった頃には約10億円を投じて本社工場を移転し、売上が約40億円に達した頃には再び同額の約40億円をかけて第二工場を完成させるなど、自社の売上規模に匹敵する巨額投資を断行し続けてきた。

こうした不退転の姿勢が、国内外のメーカーから信頼を得る「オンリーワンカンパニー」としての地位を築いている。この挑戦の精神は、今回お披露目された新本社研究所にも反映されている。

式典には多数の関係者が参集した

「一つ屋根の下」で知の連携を加速

式典で川合社長が語ったコンセプトは「一つ屋根の下」であり、別々の場所で活動していた研究部門を一箇所に集約し、コミュニケーションを強化することで開発スピードを飛躍的に高める環境が整えられた。

「新本社研究所は『一つ屋根の下』をコンセプトに、分散していた研究部門を集約してコミュニケーションを強化し、開発スピードを飛躍的に高める場として建設した。最新の分析機器を駆使して『感触』などの官能評価を数値化・データ化することで、科学的な裏付けに基づいたオンリーワンの製品づくりを推進する。あわせて、大学や研究機関との共同研究にも積極的に取り組み、外部の知見と自社の技術力を掛け合わせるオープンな研究姿勢によって、次世代の化粧品原料開発に挑む。1952年の創業から1989年の成田移転を経て、バブル崩壊やリーマンショック、震災、コロナ禍といった激動の時代を乗り越えてこられたのは皆様の多大なる支援によるものだ。創立75周年とその先の未来に向け、この新しいホームから化粧品業界の発展に貢献し続けていく」（川合社長）

川合社長

新本社研究所

交流スペース「ラウンジ」（3F）

建物は特徴的な三角屋根の「合掌造り」をイメージしており、人々が集い、語らう温かみのある空間が創出されている。施設内には「ラウンジ」と呼ばれる交流スペースが設けられ、部署間の連携や新しいアイデアの創出を促進する。2階には製品開発部や品質管理部など4つの主要部門が集結し、最新の分析機器を用いて、感性評価を数値化するなど科学的根拠に基づいた処方開発を行う。

式典前の見学会では、生産の中核を担う第二工場の詳細も公開された。2016年に竣工したこの工場は、エステル類、グリコール類、高級アルコール類など多様な製品の製造に対応し、危険物製造所として防爆仕様などの安全性に配慮されている。従来の横型配置とは異なり、原料供給から充填までを立体的に配置することで、コンパクトなプロセスを実現している。

製造工程の最上流にあたる4階には、長年のノウハウを投入したオリジナル設計の設備が並ぶ。エステル製造用の反応缶、脱臭缶、高級アルコール製造用のペレタイザー付属タンクが設置されており、反応、蒸留、脱臭の工程が進められる。3階からは、これらの巨大な反応缶の下部を見学することができ、建物2階分を貫くスケール感が確認できる。

2階には、少量多品種生産やパイロットプラントとしての機能を持つ設備がある。4階と同様の構成（反応、蒸留、脱臭）ながら、スケールは10分の1以下となっており、実機製造前のテストや小規模ニーズに対応する。また、ラボ内には製造条件を再現可能な設備も備えられている。

最終工程の1階には、クリーンブースを備えた充填設備があり、異物混入を防ぐ安心・安全な体制により、医薬品メーカーからの採用も増えている。

来賓の商工中金・関根社長は新研究所を「未来を見据えたものづくりの象徴」と評し、千葉興銀・梅田頭取CEOは同社の「常に未来を見据えながら時代の変化に果敢に対応し続ける姿勢」に敬意を表した。高級アルコール工業は、新本社研究所における「知の連携」と、第二工場における「高度な製造技術」の両輪で、さらなる飛躍を目指す。

ライオン

「東京商工会議所会頭賞」を受賞

～「すすぎゼロ洗濯」を可能にする特許で～

ライオンは、環境負荷の低減と生活習慣の変革に貢献する画期的な技術が評価され、同社が発明した「衣料用液体洗浄剤組成物」の特許が、公益社団法人発明協会主催の令和7年度関東地方発明表彰にて「東京商工会議所会頭賞」を受賞した。この発明は、洗濯における水とエネルギーの使用量を大幅に削減し、持続可能な地球環境の実現に直結する技術革新として注目される。なお、同賞は地方発明表彰における特別賞の1つに位置づけられており、表彰式は11月20日に水戸市民会館にて行われ、受賞者に表彰状が授与された。

節水・省エネに貢献する画期的な洗浄技術を開発

受賞した特許「衣料用液体洗浄剤組成物」（特許番号＝特許第7122446号）は、衣料用液体洗剤に界面活性剤とポリエチレンイミンのエチレンオキシド付加体、脂肪酸を配合することで、すすぎ性が良好であることに加え、洗濯におけるすすぎ工程を省略した場合でも十分な洗浄力を発揮することを見出したものだ。

この発明は、ライオングループが2019年に策定した長期環境目標「LION Eco Challenge 2050」のもとで取り組む水使用量削減の一環として開発が進められた。水道水の浄化や移送、排水処理にはエネルギーが必要なため、洗濯での節水はCO_2排出量削減につながる。同社は特に洗濯のすすぎ工程に着目し、これを省略しても洗濯が可能な洗剤の開発に取り組んでいた。

一般的な洗剤では、洗浄時の泡立ちが多いことが良好な使用感につながるが、すすぎ完了の目安は泡がなくなることであるため、すすぎ工程を省略するには泡立ちを抑えることが求められる。さらに、すすぎを省略すると、洗濯物から取り除かれた汚れが再び付着し、その結果、洗浄力が十分に発揮されないという課題もあった。

環境負荷の低減へ、「すすぎゼロ」を実現

今回の特許技術は、これらの課題を解決するため、洗浄時の泡立ちを抑えつつ、すすぎ工程を省略しても洗浄力を発揮できるものとして開発された。洗浄力を持つ界面活性剤が泡立ちの原因であるため、界面活性剤を少なくしても洗浄力を維持し、汚れの再付着を防止できる洗浄基剤として、ポリエチレンイミンのエチレンオキシド付加体が発見された。

この付加体は、水になじみやすいうえに、油汚れになじむカチオン部位を持つことから、効率よく汚れを取り除き、汚れの衣類への再付着を防止できると考えられている。また、ポリエチレンイミンのエチレンオキシド付加体は、界面活性剤と複合体を形成することで、皮脂汚れの成分であるオレイン酸の界面張力を低下させ、衣類から取り除きやすくすることで、界面活性剤が少なくても高い洗浄力を発揮する。

この発明により、洗浄中の泡立ちを抑え、洗濯中のすすぎ工程を省略しても十分な洗浄力をもつ衣料用洗剤の開発が可能となり、同社はこの発明を「すすぎゼロ」を訴求する液体洗剤の開発に応用展開している。